

施策評価表

京都市南丹市
作成日：平成22年7月13日

平成22年度(平成21年度実施)

評価施策名	6 暮らしの安全と安心を守る	施策CD	26	施策主管部	総務部	部長名	上原文和
政策名	第2章 自然・文化・人を活かした郷を創る			施策関係部	企画管理部・農林商工部・土木建築部・教育委員会		

【施策の概要】

1 南丹市が考える理想(目的)

目標項目(成果)	単位	H20	H21		H22	H23	H24
		実績値	目標値	実績値	目標値	目標値	目標値
防災行政無線の普及	%	38.8	53.0	53.0	53.0	60.0	100.0
交通事故負傷者数	人	218	150	226	150	150	150
火災発生件数	件	14	0	8	0	0	0

○ 市民生活の安全、安心を確保する。

1 南丹市の現状(課題)

- かけ崩れ等の土砂災害が懸念される危険箇所が、多く残されている。
 - 市街地や山村集落に水害をもたらす河川も未改修部分が多く残されている。
 - 常備消防は、京都中部広域消防組合園部消防署及び3出張所がある。
 - 消防団は、4支団19分団(うち女性分団1)で構成している。
 - 消防団を含めた防災体制の充実が必要である。
 - ハザードマップ、災害時要援護者台帳の有効な活用が必要である。
 - 広範な本市では救急搬送に課題がある。
 - 南丹警察署や地域と連携して、防犯啓発等を推進しているが、犯罪はなくなる。
 - 交通安全施設の整備、充実と啓発を進めているが、交通事故はなくなる。
 - 市内交通事故発生状況(平成18年) 203件 死者5人(5件) 負傷者269人(198件)
- (現状) ・防災行政無線の普及 15.8%・2,144世帯 (平成19年)

2 対策をしなければどうなるのか

- 自然災害により、市民生活の安心、安全が脅かされる。
- 人身に関わる災害も想定される。
- 有事の際、円滑な避難や救助活動ができない。
- 被害の拡大や二次災害の危険性が增大する。
- 医療機関も含め、救急医療体制の整備がなければ、安心して地域で生活できない。
- 犯罪が増えて、市民生活の不安が増大する。
- 交通事故が増える。

3 それは何故おきたのか

- 山間地には未対策の急傾斜地や土石流危険箇所、未改修の河川が数多くある。
- 若者の市外流出や市外通勤者の増加により、消防団員の確保が困難となっている。
- 地域のコミュニティが希薄になり、地域での犯罪抑止力が低下している。
- 交通事故の発生しやすい危険な箇所がある。

4 それらを解決するために何をするのか

- ① 救急医療体制の強化を進める。
 - ・広域的な救急医療体制の強化、救急用資機材の充実、救急救命に関する講習会の実施
- ② 災害に強いまちづくりを進める。
 - ・河川改修、治山、砂防事業に関する国、府への要望活動の実施
 - ・防災関係機関の連携強化、防災施設の充実、防災シミュレーションの実施
 - ・災害時要援護者を救護できる体制づくり
 - ・消防団員の確保、消防団組織の見直しと充実
 - ・自主防災組織の育成、防災訓練の実施、避難方法、避難場所等の広報啓発活動
 - ・情報防災システムの構築、防災行政無線の整備、防災に要する資機材の整備と更新
- ③ 安心して暮らせる環境を整える。
 - ・警察や市民、行政が連携した防犯活動、地域における自主的な防犯活動の育成
- ④ 安全に利用できる交通環境を整備する。
 - ・危険箇所の解消、交通安全施設の整備、交通安全意識の高揚に向けた啓発活動

【施策コスト】(評価対象事業の合計)

	単位	H20	H21	H22	H23	H24	
決算額(計画額)	千円	552,521	692,584	214,383	256,956	295,302	
財源内訳	使用料・手数料	千円	23,369	29,877	32,109	32,103	31,833
	国・府支出金	千円	98,849	129,733	23,142	31,446	30,446
	地方債	千円	206,500	380,200	31,600	62,100	95,000
	一般財源	千円	223,803	152,774	127,532	131,307	138,023
職員従事人数	人・年	3.22	9.12				
人件費	千円	20,778	64,131				
事業費総額	千円	573,299	756,715				

【施策目標の達成に貢献度の高い事業】

全 24 事業 単位:千円

事業名(細事業名)	決算額	うち一般財源	うち人件費
災害時要配慮者台帳整備事業(災害時要配慮者台帳整備事業)	3,174	3,174	2,798
河川改修事業(統合準用河川改修費補助 準用河川板野川)	26,658	21,358	13,158
消防団員退職報償金(消防団員退職報償金)	71,390	41,650	903
消防団活動推進費(消防団活動推進費)	27,055	27,055	10,946
消防水利整備事業(消防水利整備事業)	28,102	3,067	2,236
道路・橋梁維持管理事業(交通安全施設整備事業)	16,970	9,240	8,515

【前年度の評価】(要約)

- ### 【総合評価】
- ① 目標の達成状況
 厳しい財政状況になかでも、市民の安心・安全な暮らしを守る事業は、計画的に推進できている。
 - ② 目標値や施策の考え方の見直し
 公衆防犯灯については、設置基準の見直しをしてきたところであるが、街路灯との区別が理解できないものがある。特に集落間における維持管理等があり、財政負担を伴うが安心・安全の観点から検討が必要。
 防災行政無線(移動系)については、旧町毎に許可を受け消防団を中心に活用しているが、特に災害時の指示、連絡体制の充実が必要であり、公用車を中心に計画的に整備する必要がある。
- ### 【改善の方向性】
- ① 今後の方向性
 総合的な危機管理を確立し、市民の防災意識の向上と、自助、共助の取り組みを推進する。
 - ② 各事業の対応
 市民の暮らしの安全を守る観点から、広範な地域を守り監視することは非常に困難。
 市民のプライバシーに配慮しながらも危険地域(河川も含め)、箇所に監視カメラ、地すべり探知機等設置し、早期発見、早期通報に努める。
 人口の減少と高齢化の中、消防団員も年々減少している。地域課題を洗い出し組織の見直しや活動体制のあり方について検討するとともに、自主防災組織の拡充を図る。
 消防水利の不足地域を調査し、耐震性防火水槽の計画的設置を図る。

【今年度の評価】

- ### 【総合評価】
- ① 目標の達成状況
 防災行政無線の普及(美山エリア)については、予定通り21・22年度の2か年で完成した。
 交通事故負傷者数については、平成21年度目標値に比べ150.67%、平成20年度比較103.67%であり、引き続き減少に努める。
 火災発生件数については、平成21年度目標値0に対し、8件の発生、平成20年度比較57.14%と減少している。引き続き火災予防の啓蒙・啓発に努める。
 - ② 目標値や施策の考え方の見直し
 防災行政無線園部エリアの整備期間の見直しをする中で、整備内容についての検討をする。
 南丹市の消防団再編については、平成24年4月運用に向け消防委員会で検討を願う。
- ### 【改善の方向性】
- ① 今後の方向性
 引き続き、総合的な危機管理の確立に向け、市民の防災意識の向上と、自助、共助の取り組みを推進する。
 - ② 各事業の対応
 消防団より提言を受けた「消防団組織再編計画案」を元に、現組織における課題等を把握し、消防委員会にて協議検討し、時代に即した新しい消防団組織を確立させる。
 災害時の緊急食料を概ね11,000食(1人3食分として、飲料水含め人口の約1割)分を5カ年計画で整備する。
 既設防火水槽の老朽化に伴い、漏水やひび割れ等による機能低下が見られることから、浚渫及び補修をすることにより機能の向上を図る。

【評価を受けて取り組んだこと】

- ① 美山管内のデジタル防災無線を20・21年度で予定通り完成させた。
- ② 災害時要配慮者台帳整備事業について、加除式並びに内容も充実し、22年度配布に向け取り組んだ。
- ③ 消防団組織等について、消防団内部で検討。市長に対し「南丹市消防団組織再編計画」を提言した。
- ④ 臨時交付金等を活用し、消防資機材の更新並びに充実を図った。